

## 巻頭言 (Preface)

## 日本地下生菌研究会会報『Truffology』 発刊 5 周年に寄せて

## In celebration of publication of Truffology volume 5

折原 貴道 (日本地下生菌研究会 会長)

Takamichi Orihara (President of the Japanese Association for Truffle Science)

神奈川県立生命の星・地球博物館, 〒 250-0031 神奈川県小田原市入生田 499

Kanagawa Prefectural Museum of Natural History, 499 Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan

E-mail: [t\\_orihara@nh.kanagawa-museum.jp](mailto:t_orihara@nh.kanagawa-museum.jp)

Article Info: Submitted: 18 March 2022

Published: 31 March 2022

日本地下生菌研究会 (The Japanese Association for Truffle Science; JATS) は 2016 年に発足し、今年で 7 年目を迎えた。その間、地下生菌の研究の多面的発展や知識の普及を目的とする、世界的にもユニークな研究会として、地下生菌の野外観察会やオンライン同定会、会員による研究発表 (一般講演) やシンポジウム、メーリングリストでの会員同士の情報交換など、多様な活動を実施してきた。その成果もあり、会の発足時にはおよそ 30 名であった会員数は、6 年目となる 2021 年には 100 名を超え、現在も緩やかではあるが増加している。一般的な地上生きの菌類ではなく、地下生菌とその関連菌という、いわば少数派の菌類を主に扱う研究会として、この会員数の増加ペースは会の発足当初の想定を超えるものであった。

本研究会の行う事業の中でも、その中心に位置づけられるのが、オンラインで無料公開される本誌『Truffology (日本地下生菌研究会会報)』の発行である。本誌の目指すところは、第 1 巻第 1 号の巻頭言に詳述したように (折原, 2018)、査読付き原著論文だけでなく、より小規模で投稿の敷居も低い観察記録や、学術資料として残りにくい国内各地からの採集記録、それに加え地下生菌にまつわるエッセイなど、多様な性格の記事を集約するプラットフォームの役目を果たすことである。それにより、国内のローカルな知見から国際的発信力のある研究まで網羅し、かつプロの研究者もアマチュアの愛好家も隔てなく学術的に交流し、新たな知識を得る場として機能することが期待される。2018 年 3 月発行の第 1 巻 1 号から毎年 1 回の発行を継続し、2021 年の第 4 巻 1 号までに合計 31 の記事 (内訳: 原著論文 10、観察記録 7、普及記事 7、標本リスト 3、巻頭言 2、総説 1、訂正 1) が掲載された。これにより、国内の地下生菌に関する知見は飛躍的に増加し、上述の本誌の目的に対しある一定の

成果が得られたと言ってよいだろう。現状では、掲載記事は日本国内の地下生菌を対象としたものにはほぼ限られているが、英文による新種記載や新産種報告の記事なども含まれ、それらを通じて、徐々にではあるが本誌に対する国際的な認知も広まりつつある。

本誌は今年 (2022 年)、5 周年を迎え、山本航平編集長を中心とする新たな編集体制のもと、第 5 巻を発行する。新たな試みとして、第 5 巻では地下生子囊菌ツチダンゴ属 *Elaphomyces* Nees を特集し、本属に関連する複数の記事を取り上げる。本属については、国内では今井三子 (1900–1976)、小林義雄 (1907–1993) 両博士による古典的な分類の研究があるが、近年、世界的に多数の新種が記載され、国内での種多様性についても改めて着目されつつある分類群である。本特集が、日本におけるツチダンゴ属研究の新たな端緒となることを期待したい。

末筆になるが、本誌の出版・発行にあたり、継続的かつ献身的なご協力を賜った編集委員の木下晃彦博士、大和政秀教授、山本航平博士、およびオンライン出版にあたりご尽力いただいた本研究会ウェブページ担当の大前宗之氏にこの場を借りてお礼申し上げる。

## 引用文献

折原貴道 (2018) 日本地下生菌研究会の設立、および日本地下生菌研究会会報 “Truffology” 発刊を記念して—日本の地下生菌研究のこれまでとこれから—。Truffology 1: 2–4.